



2022年1月25日

キリスト教センター通信

リレーメッセージ 第49号

「よかったですね」

キリスト教センター長 藤倉哲哉

大学のゼミにいつも「よかったですね」と相槌をくれる後輩がいた。「今日のサブゼミは活発だったな」といえば「よかったですね」、「このランチ美味しいよ」にも「よかったですね」と、どんな小さなことにも頷いてくれた。目立つタイプではなかったが真面目な人柄が慕われていたようで、きっと周囲に嫌な思いをする者はいなかっただろう。

また、相談を持ちかけるとアドバイスするより「大変ですね」と静かに話を聞いてくれる人がいた。迷ったり困ったりしている時は何かしら助言が欲しいのだが、世の中の問題は専門家や年長者の一言で簡単に解決するとは限らない。でも、この人は私にできることとできないことがわかっていたのか「じゃ一緒にやってみませんか」と誘ってくれることはあっても、決して「頑張ってください」とは言わなかった。

「よかったですね」も「大変ですね」も他人への共感で、人の喜びや困難を受け容れて相手と共にあるということだ。実際に経験していなくても、まだ勉強していなくても自分がその立場ならどう思うか、どう行動するか、想像力を働かせることが大切だ。

人は独りでは生きていけないし、誰かの愛情を受けないと常に孤独のなかにおかれてしまう。普段は意識していなくても、自分に共感してくれる誰かがいるからこそ、お互いに寄り添って生きていけるのだ。

私たちも家族や友人、大切な人のことをはじめ、困難にある人のことを考え続けていきたいものである。

一口メモ 「リオのカーニバル」

世界屈指の祭りのひとつに「リオのカーニバル」があります。ブラジルのリオ・デジャネイロで繰り広げられる盛大な祭りで、陽気なサンバのリズムに乗って大勢の市民が数日にわたって煌びやかな衣装を身にまとい踊ることで有名です。

キリスト教社会では復活祭（イースター）前の40日間を大斎節として、イエスの断食・修行をおぼえて慎ましく静かに暮らします。

カーニバル（謝肉祭）は静かに過す大斎節の前の祭りで、やがて訪れる明るい春と秋の豊かな実りを祈るためとされていますが、現在では宗教的な意味はほとんどなくなり、市民の楽しみや観光イベントとして開催されています。



- 新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り -

※ みなさんもお時間のあるときにお祈り下さい

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。

どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。このお祈りを、主イエスさまの、み名によってお捧げいたします。 アーメン

病に苦しむ人のための祈り

慈悲の父、慰めのもとである神よ、現在、新型コロナウイルスに感染し、痛みや苦しみ、不安や悲しみの中にある人のために献げる祈りをお聞きください。どうか病で困難や不安の中にある人を憐れみ、み恵みによってその体と心を強め、病を癒やしてください。また、医師と看護する者とを助け導き、その働きを支えてください。そして、何もできずに不安と悲しみの中で苦しむご家族やご友人、また、私たちの心も神さま、あなたが愛によってお救いください。

主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン

離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離なれて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支えください。また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。

この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。 アーメン